

## 自作問題より

実習をはじめとする学習活動の中には、情報モラルの育成につながる材料が含まれている。指導者自身が常に情報モラルについて意識することにより、学習活動の中で、適切に指導する必要がある。具体的には、(1) 情報収集においては、適切な手続きによる情報の収集、(あ) [ ] などの尊重、情報の(い) [ ] についての意識、(2) 情報発信においては、(う) [ ] の保護、(え) [ ] などの尊重、情報発信に伴う責任、(3) コミュニケーションにおいては、(お) [ ]、相手への配慮、(4) 情報通新ネットワーク利用においては、(か) [ ] の遵守、(き) [ ] への配慮、(5) 制作活動においては、(く) [ ] などの尊重などが考えられる。

平成8年7月の中央教育審議会で、情報化と教育について推進すべきこととして次の4点を示した。(1) 情報教育の(け) [ ] な実施、(2) 情報機器、情報通信ネットワークの活用による学校教育の(こ) [ ] 的改善、(3) (さ) [ ] 社会に対応する「新しい学校」の構築、(4) 情報社会の「(し) [ ]」の部分への対応。

実習を評価する時には、実習の成果だけでなく、(す) [ ] における生徒の努力も評価することが大切である。

情報という教科に3科目用意されているのは、生徒の(せ) [ ] や(そ) [ ] [ ] を考慮したからである。

情報Aは、コンピュータや情報通信ネットワークなど(た) [ ] を活用する実習を多く取り入れる。情報Bは、コンピュータの(ち) [ ] や、コンピュータを活用した(つ) [ ] の学習を行う。情報Cは、情報の(て) [ ] や(と) [ ] について、実際の(な) [ ]、情報社会の理解という学習を行う。

情報活用の実践力：課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に(に) [ ] ・(ぬ) [ ] ・(ね) [ ] ・(の) [ ] ・(は) [ ] し、受け手の状況を踏まえて発信・伝達できる。情報の科学的理解：情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解と、情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を(ひ) [ ] ・(ふ) [ ] するための基礎的な理論や方法の理解。情報社会に参画する態度：社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの(へ) [ ] 性や情報に対する(ほ) [ ] について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度。

情報機器を活用した学習を行う際には、生徒の(ま) [ ] や(み) [ ] を身につける観点から、(む) [ ] やコンピュータの(め) [ ] などに留意しなければならない。

内容の取り扱いにあたっての配慮事項として、(1) 各科目の指導においては、内容の全体を通じて(ア)  の育成を図ること。(2) 授業で扱う具体例などについては、に対応して適宜(イ)  必要があるが、(ウ)  よう配慮すること。

普通教科の目標の文中にある[情報]及び[情報技術]を活用するための知識と技術の修得は(エ)  と(オ)  に、また[情報に関する科学的な見方や考え方を養う]は(オ)  に、[社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響]を理解させることは(カ)  にそれぞれ対応している。

専門教科「情報」では、基礎的科目として(キ)  と(ク)  がおかれ、(キ)  と総合的科目の(ケ)  は履修することが義務づけられている。専門教科「情報」では、各科目全時間数の(コ)  以上を実習にあてる。

平成(サ)  年7月の答申においては、幼児児童生徒の実態、教育課程実施の状況、社会の変化などを踏まえつつ、完全学校週(シ)  の下で、(ス)  の中で(セ)  を展開し、幼児児童生徒に(ソ)  を育成することを基本的なねらいとした。

普通教科「情報」の目標の一つ、(t)  について、「情報A」では身の回りにある情報機器から出発して、(タ)  を考えさせ、情報社会へと考えを進めさせる。「情報B」では、(チ)  から情報社会を考えさせる。「情報C」では、(ツ)  から情報社会を考えさせる。また、「情報C」がもっとも(テ)  を重視しており、次に、「情報A」、「情報B」の順になる。

高等学校における普通教科「情報科」新設の意義は、(ト)  という教科を設けることにより、(ナ)  の一員として(ニ)  と(ヌ)  を生徒に身につけさせることにある。

情報化の進展を背景に、これからの社会を生きる生徒には、大量の情報に対して的確に選択を行うとともに、日常生活や職場生活において、情報手段を適切に活用し、主体的に情報を(ネ)  ・(ノ)  ・(ハ)  できる能力が必須になる。

情報Bの目標：コンピュータにおける情報の(ヒ)  や処理の(フ)  ，情報社会を支える情報技術の(ヘ)  を理解させ、問題解決においてコンピュータを効果的に活用するための科学的な考え方や方法を習得させる。

専門分野「情報」は3分野11科目に分かれており、その11科目とは、

(ホ)  (マ)  (ミ)  (ム)   
 (メ)  (モ)  (ヤ)  (ユ)   
 (ヨ)  (ラ)  (リ)  である。